



題字：鳩山威一郎
機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階
TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月1回 10日発行
会費(4月~3月)
個人/3,000円以上
法人/10,000円以上

第二十四回通常理事会開催

国際交流事業OEJAB派遣・来日三年ぶりに始動

七〇周年を機に新たな友愛のあり方を検討・活発に意見交換

二〇二二年八月二十二日(月)午後六時より、友愛サロンにおいて、第二十四回通常理事会が開催され、今後に向けての意見交換も行われた。この日は、間近に迫っているOEJABの派遣(二〇二二年度第一陣)の詳細、併せて九月下旬に予定されているOEJABからの来日について、詳細な報告・承認が行われた。また、友愛創立七〇周年が来年に控えていることから、友愛の今後のあり方について、役員間での意見交換が行われた。(議事録一部掲載)

開始にあたり、理事長が挨拶を述べた。先生になって欲しいとまで、仰っていたいただきましたが、私も、世界状況を見ても、今こそ友愛との思いを強くしており、日韓友好に含め、財団の事業としても、そうした動き、企画など積極的に進めていきたいと考えています。今日の理事会は、皆様方のご意見をお伺いする機会とさせていただきます。先生になって欲しいとまで、仰っていたいただきましたが、私も、世界状況を見ても、今こそ友愛との思いを強くしており、日韓友好に含め、財団の事業としても、そうした動き、企画など積極的に進めていきたいと考えています。今日の理事会は、皆様方のご意見をお伺いする機会とさせていただきます。

先日、新任の韓国尹(ユン)大統領の大統領就任式に参列して参りましたことご報告いたしました。この度、尹大統領から当時の写真を送っていただきました。私が訪韓時に今後の日韓友好を前進させるための

新たな方針・現行の事業の発展など皆様方のご意見をお聞きしたいと挨拶
鳩山由紀夫理事長
会議室の正面に新たに掲げられた「友愛」の書。創設者鳩山一郎先生の揮毫で、重厚な雰囲気を感じさせられている



コロナ対策として、席の間隔を拡げ大きな円を作った会議。皆活発に意見を述べ、距離感を感じさせない熱気が溢れている

この会談を進め、来日された折の協議テーマを練っていただく役割をお願いしている。皆様にもそうした状況をご理解いただき、雑駁な状況ではあるが、本日も承認いただいたうえで、西川理事を派遣したいと考えている。
この発言を受け、西川理事が補足的に説明を行い、全員に賛意を語ったところ、全会一致でOEJABとのプロジェクトの方向性を承認した。
第二議題 七〇周年を経た後の、公益財団法人友愛の方向性について
理事長より発言/七〇周年を節目に、現行の事業の見直しを、新たな事業の確立など長い目でみた公益財団法人友愛のあり方を、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。
現行事業の充実ももとより、先にもお話しした韓国・中国からの招聘、そして沖縄の抱える問題を若者に伝え、平和について学んでいただく機会としていただきたいと思っております。掲げるテーマとして「平和のメッセンジャー育成」という具体的な目標を掲げ、学生の招聘を実施したい。交通費はOEJAB負担・滞在費は友愛負担の条件で進めていくつもりだ。併せて、次の議題でもあるが、OEJABのみならず、中国、韓国など近隣の国からも学生を招聘し、広島で学習、自国で発信という状況を構築していきたいと考えている。
今回、西川理事にはOEJABに赴き、事前に要人

の弱者・貧困への取り組みを何か考えたい ③友愛的な活動を行っている団体を支援・協力するなどの拡張の方法を検討する
井田理事/①友愛塾のような若者活動母体となる活動の実施 ②友愛山荘を活用し、若者が集まって友愛について語るなど、若者を取り込める方法を考える
③中国と同様に、韓国での活動も視野に入りたい ④ミャンマー支援事業の延長として、ミャンマーの国内情勢が落ち着かないことから、在日のミャンマーの方々の支援を何か考えていきたい ⑤若者はもとより、私たちも含めて、沖縄について学べる機会を作り、平和のための勉強を進めていきたい。
中島理事/①小論文コンテストの優勝者を招聘するなど、人材の交流を図りたい ②同様に、日本における中国語を学んでいる学生、韓国語を学んでいる学生を対象に、同様の事業を展開し、人材の交流を図ることを検討したい
海方理事/現在活動を活発にしている「友愛ユニオン」の考え方を取り入れていきたい。例えば、このような場に、友愛ユニオンの代表を招いて発言させるなども考慮したい。
鳩山太郎理事/これから人材交流が大切だと考えている。人材交流の機会を増やしたい。
芳賀理事/友愛とはなどのテーマを常に研究・討論する「友愛研究所」の設立を七〇周年を機に実施するのは有効ではないだろうか。友愛ユニオンなどの若者も、「友愛研究所・研究員」として活動すれば、活動がし易くなると思う。
山口理事/沖縄の貧困問題は切実で、進学できない子供も多く、格差が広がっていく。そのため、沖縄の貧困問題に取り組み、例えば返還義務のない奨学金の設立など、できたら良いと考えている。
攪上理事/提出した意見書「今後の友愛を考える」をご参照ください。
西川理事/提出した図表「友愛理念の拡大と活動の継続」をご参照ください。以上各理事・監事の発言を受け、理事長は今後いただいた意見を基に、皆さんと共に検討を進めていきたいと思っております。次回以降、折に触れ検討を進めることを約した。
今回の各人の意見をまとめるよう、事務局に指示した。
第三議題その他
九月二十六日(月)OEJABとの意見交換会・懇親会/東京ドームホテル
先の理事長挨拶にもあったOEJABとの意見交換会及び懇親会を再度案内し、各人の出席を促した。
以上をもって第二十四回理事会を二〇時二〇分に終了した。
出席者/鳩山由紀夫理事長・井上和子理事・芳賀大輔理事・中島政希理事・井田安信理事・攪上哲夫理事・西川伸起理事・南桢幸信理事・鳩山太郎理事・山口千恵子理事・海方 亨監事

の座席が続いた。バイデン大統領夫人は一四列目に着席し、ポランド大統領の背後だったと報じられている。棺を挟んで向かい側に各国王室からの参列者が座り、天皇皇后両陛下は六列目であった。外交儀礼の淵源はヨーロッパの宮廷外交にあるが、王室にはやはり歴史の重みがある。▼他方で、不運なタイミングというべきか、故安倍元首相の「国葬儀」は国際社会ではすっかり色褪せた観がある。六割超の国民が反対の中で、岸田首相が理由に挙げた「弔問外交」についても、成果はほとんど期待できない。そもそも外交のメッセージとして何を伝えようというのか、それが全く見えないことに絶望的な思

友愛時評

▼エリザベス女王の国葬がロンドンのウェストミンスター寺院で執り行われた。英国史上最長の在位期間七〇年、齢九六のまさに「大往生」である。各国からの元首や首脳など約五百人を含む約二千人が参列し、テレビやネットによる中継映像を四〇億人以上が視聴したと伝えられる。▼EU離脱(ブレグジット)を経て英国政治の混乱は続いている。ロシアのウクライナ侵攻に対して最強硬の対決姿勢とウクライナへの支援をジョンソン前首相は打ち出していたが、それも世界政治における英国の立ち位置を確保しようという動機によるのかもしれない。エリザベス女王は最期に貴重な「弔問外交」の機会をもたらした。▼外交では席次が重要でありホスト国のメッセージがこめられるが、最前列にはチャールズ新国王ら親族が着席し、その後ろに英国王を国家元首とする英連邦(コモンウェルス)の一四方国の総督や首脳らの座席が続いた。バイデン大統領夫人は一四列目に着席し、ポランド大統領の背後だったと報じられている。棺を挟んで向かい側に各国王室からの参列者が座り、天皇皇后両陛下は六列目であった。外交儀礼の淵源はヨーロッパの宮廷外交にあるが、王室にはやはり歴史の重みがある。▼他方で、不運なタイミングというべきか、故安倍元首相の「国葬儀」は国際社会ではすっかり色褪せた観がある。六割超の国民が反対の中で、岸田首相が理由に挙げた「弔問外交」についても、成果はほとんど期待できない。そもそも外交のメッセージとして何を伝えようというのか、それが全く見えないことに絶望的な思

特集 若者の声

友愛小論文コンテスト友愛賞・第二位受賞作品紙上発表

友愛ユニオンメンバー 活動報告

二〇二一年十二月二十一日(火)午後三時より、北京語言大学と友愛事務局など数カ所を繋いで、オンラインによる「私にとって友愛とは」の講演会が開催された(機関紙『友愛』五七四号既報)。そのビデオ講演を視聴した学生による「私にとって友愛とは」の小論文が寄せられ、選考委員による厳選な選考の結果、受賞者が決定した。今回紙上に受賞作品を掲載し、ご報告としたい。表彰式は、オンラインにて開催予定である。また、友愛ユニオンのメンバーも、それぞれの目標に向かって活動し、その報告を寄せてくれている。国境を越えた若者の声特集として、紙上でご紹介させていただく。今回登場するのは、二〇一九年度派遣員の森崎桃子さんと二〇二一年度派遣員の計良衛さんのお二人。

私の心における窓を開けてくれた友愛

王琳軒(三年生)

「リンちゃん、また窓を閉めてどうしたの?」「だって、子供がうるさいんだもん。」「たまにはみんなと一緒に遊んできたら?」これはかつて家に閉じこもりがちだった私の生活にありふれた母との会話であった。今ではこのような会話はもうない。そのきっかけを得たのは去年の十二月二十一日に開かれた鳩山先生の講演だった。

「友愛とは何か」という問いに対し、私はこれまで「人と仲良くする」と「私にとって友愛とは、一言でまとめると「お互いの違いを認めただでお互いを尊重すること」である。この考え方は他人との付き合いにせよ、他国との交渉にせよ、社会のあらゆる方面において重要な役割を果たしているのではないだろうか。」

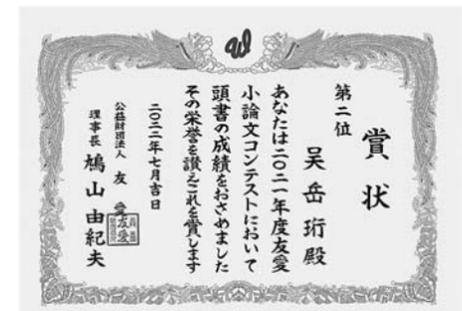
人は自分の価値観で相手を判断し、自分の要求を他人に強いる傾向があるとよく言われる。互いの違いを受け入れられなければ、相互理解に支障をきたし、一人ひとりの個性を大切にしつつ共存する世界を築くプロセスに壁ができてしまう。私を例に取ってみる



「私にとって友愛とは、一言でまとめると「お互いの違いを認めただでお互いを尊重すること」である。この考え方は他人との付き合いにせよ、他国との交渉にせよ、社会のあらゆる方面において重要な役割を果たしているのではないだろうか。」

一人では北京のあちこちをぶらぶらと歩きながらすれ違っている顔の人々を見るのが好きだ。路上で走っている車がさっと自分の傍を通り越した瞬間、「我々が常に他人とすれ違った状態にあるのに、我々の間の友愛とはどこにあるの?」という素朴な疑問を持ちながら思い込んだりするようなことが度々ある。

キャンパスに帰ってきたとたんに、再び深刻に考え込むようになった。ふと悟ったという瞬間もあった。その刹那、光が雲から透けて、辺りに掲げられた万



「礼記」にも「大同社会

絆に込められた友愛

私にとって「友愛」とは

国の旗を照らした。我々の大学にかけてある数えきれないほどの万国の旗とそれに関連しているストーリーと友愛の昔話を目に浮かべながら、鳩山先生に教えていただいたものが脳内に蘇ってきた。

吴岳珩(三年生)

「公平、自由、平和の運命 共同体の構築を後押しすること」という儒教思想に記されている。それらとは、自己と他人を尊重する上で愛を差し上げるものである。今になって千年も経っていても、代々伝わる「大同思想」というものは二十一世紀における平和発展の現実とピッタリ合うと思

これは鳩山先生と茂木先生のお話を伺った「生存競争が人生の男性的原理であること」という具体的な表現であるだろう。国家利益のために戦争の鉄槌を下ろし、遙か遠くからサイレンと銃声が鳴り響こうとも、見知らぬ人々が血肉を失って泣き叫んでいるのを誰かが知っているのだろうか。

を差し伸べることができなければ、この危機は乗り越えられない。被災国に対する人道支援、発展途上国へのワクチン寄贈など、いずれも「ともに」という思いが込められている。

ファシズムと植民国家が異なる人種に対する虐殺や奴隷制度を行ったのは一つの例である。しかし、この世界の片隅には依然として正しい軌道があるに違いない。友愛なくしては、どのように人と人、国と国、メインカルチャーとサブカルチャーとの両方を悪循環から脱却させて、鮮やかな色彩をつけた「大同社会」を築くのだろうか。より多くの人々がそれに気づいたら、天下一家の夢はきっと叶えられると信じている。

「鬼ごっこだよ!早く隠れて!」そこにあつたのは、子供の明るい声と春を感じるやさしい風であった。

夕日の残照は西に沈みかけ、我々のキャンパスは茜色に照らされた。北京冬オリンピック・パラリンピックの競技場にある明るい色彩が飾りあい、輝きも咲いている。眼前の世界は春の陽気に漂う三月ごとく私を酔わせた。

「おい!何して遊んでんの、私も入れて!」

友愛とは「人種も身分も問わず、善や美を突き詰めよう」とし、親切で愛のある行い、心より世界中の人々と繋がっている」というものでなくてそれはなんだろうか。

偉大な愛、小さな愛

私にとって友愛とは

鄭楽形 (三年生)

人々の感情は、世の中最も複雑なことだろう。その中でも、「愛」は最も深く考えさせられるものだ。家族間の愛、恋人同士の愛とは別に、もう一つ、生きていく上で欠かせない愛がある。

偉大でありながら、同時に小さな、それが「友愛」だ。

「友愛」と言えば、中身が濃い。講演会で茂木健一郎先生のおっしゃったように、「友愛」は「あなたと私」が一緒にいること、そして相手に対して敬意を持つことと表しているとともに、世界の調和、平和、共存の理想を考えるときに参照しなければならない精神だ。個人にとっては小さな愛でも、社会全体にとっては、小さな友愛がひとつひとつ積み重なって偉大な友愛になる。

大学一年の時、日本語初心者の方は、学校で日本人留学生と対面することについて緊張し、友達になれる

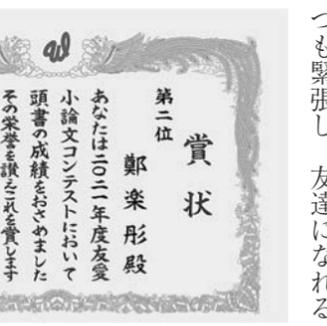
かどうかも心配であった。でも、彼女たちの親しみやすさが、いつも私の心の不安を和らげてくれた。私が小学生のように日本語の文章を朗読するのを熱心に聞いて、発音を直してくれていた。その代わりに、彼女たちに難しい中国語の文法を、流暢ではない日本語とできるだけ簡単な中国語の言葉で説明して手伝った。

その後、日本人の友達は日本に帰国することになり、翌年、北京で再会することと約束した。一年後には私も日本に留学する予定だと聞いて、「ぜひ来てください」と、とても喜んでくれた。しかし、非常に残念ながら、コロナ禍がすべての計画を壊してしまつて、私たちの再会も無期限延期となった。

しかし、「友愛」の苗木は、距離が離れても成長を止めることはなかった。コロナ感染拡大の下、心から友愛を持つ両国の国民はウイルス流行の真つ只中にあつた相手に援助の手を差し伸べた。また、日本人の友達とは定期的に連絡を取り合い、互いの健康や安全を気にかけていた。将来の再

会と、末永い「友愛」をいつも心待ちにしている。私と友人も含め、両国の国民は小さなことから助け合いながら、偉大な「友愛」を結んできた。

そして鳩山先生と茂木先生は今、我々の住んでいる世の中というのは困難な世の中でもあると指摘した。中米貿易摩擦、日韓貿易摩擦ひいては最近起こつた露烏戦争など、世界の情勢は変動し不安定であった。貧困や不平等、安全保障などといった社会問題も早急な解決が待たれる。困難だからこそ、お付き合いがある方々との絆、「友愛」の精神をより深く理解し実践すべきだと考えられる。



その後、日本人の友達は日本に帰国することになり、翌年、北京で再会することと約束した。一年後には私も日本に留学する予定だと聞いて、「ぜひ来てください」と、とても喜んでくれた。しかし、非常に残念ながら、コロナ禍がすべての計画を壊してしまつて、私たちの再会も無期限延期となった。

しかし、「友愛」の苗木は、距離が離れても成長を止めることはなかった。コロナ感染拡大の下、心から友愛を持つ両国の国民はウイルス流行の真つ只中にあつた相手に援助の手を差し伸べた。また、日本人の友達とは定期的に連絡を取り合い、互いの健康や安全を気にかけていた。将来の再



留学日記 私の見たヨーロッパの現状

友愛ユニオンメンバー / 二〇一九年度派遣員 森崎桃子

私は二〇二一年九月から二〇二二年六月までの間、パリ政治学院という、欧州の中でも国際関係論、政治学、法学に強い大学に留学しておりました。

打つていけば、域内を自由に旅行できたので(一時期それも止められたことがありますが)、アジアでの移動の感覚と欧州での移動の感覚に大きなギャップを感じたことを覚えております。

マスクをしないで市内を歩く人達など欧州では人の健康・安全を守る事は大切にしつつも、欧州連合が伝統的に取り組んできた人の移動の確保を重視して政策を実行しているように感じました。

特に欧州の学生と関わり、将来働く場所や勉強を続ける場所を話す上でも、その努力して確保されてきた移動の自由が、彼らの選択肢を大きく広げている事を実感し、それがEUの強みだと感じました。

一方、東アジア地域では、他人を守る事に高い優先順位が置かれており、マスク

をする、定められたルールを守る事を徹底しており、マスクをしない権利が主張される欧州とは違う意識を感じます。同じコロナという状況でも、国や文化が違えば人は優先して守るものも変わる、その当たり前にも感じられる真理を強く実感した体験でした。

ウクライナとロシアの戦争は学校の休暇中に勃発し、休暇後の授業は、その戦争に一部若しくは全面的に触れて行われました。私のクラスには、ロシア出身の友人もあり、彼女が友達に話している話をする事には決して心地よいものではない、という話も聞きました。一方で、フランス人の中でもプーチン大統領の思想をロシア人全体の意見

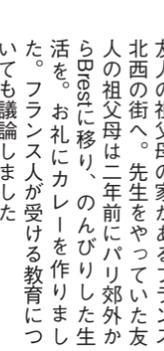
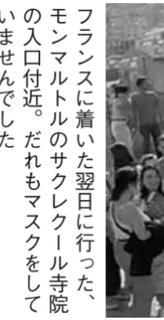
と捉えるのではなく、ロシア人のあくまで一部の人達が戦争に賛同していると思えているという考え方も多くあり、その点も興味深かったです。

全員が敵と捉えるのではなく、ロシアでも大統領と違う考えを持っている人がいると伝わっているのは、SNSにより個人の発信力が上がった結果であるようにも思います。

また東欧と英国に旅行で行った際も、ウクライナの戦争をより身近に感じる事がありました。

ウクライナに近い東欧に行くにつれて、街で見かけるウクライナの国旗の数が増えていくのです。特にチ

ェコ・ブラハのオペラハウスには、ウクライナの国旗が掲げられていました。閑静な雰囲気の中に緊張感が漂っています。



フランスに着いた翌日に行ったモンマルトルのサクレクール寺院の入口付近。だれもマスクをしていませんでした

留学二日目に会ったフランス人と韓国人の友人と共に
写真右端/筆者森崎桃子さん

友人の祖父母の家があるフランス北西の街へ。先生をやっていた友人の祖父母は二年前にパリ郊外から田舎に移り、のんびりとした生活を。お礼にカレーを作りました。フランス人が受ける教育についても議論しました



チェコ・ブラハのオペラハウスには、ウクライナの国旗が掲げられていました。閑静な雰囲気の中に緊張感が漂っています

大志抱きすぎ少年

多品目栽培農家
①北海道
川上郡弟子屈町
発行 計良 衛



弟子屈町内にある摩周湖。透明度が高いのが、遠くからわかります。

6月一杯で酪農家①福井県勝山市でのアルバイトを終え、京都府の教習所で大規模特殊免許取得の為の合宿免許に参加しました。農業現場で働く際には、1.5t-をばいじした大型特殊車両が公道を走ることもありますが、大型特殊免許は取得することが無難です。また、雪国では冬の期間除雪車に乗って除雪作業をすることで副収入を得ることも可能になります。3泊4日の合宿を終えてから北海道の釧路空港へ空路で向かいました。今回受け入れた農家は基本経営者1人と農業士を兼ねた方が、長年、ジャガイモを中心に多品目を栽培されています。北海道を歴任した理由としては、北海道の大自然と農業を営む方々との交流が、やはり農業に携わる者として、農業産出物量が2位の鹿児島県に2.7倍の差をつけて北海道の農業(2020年)は一度は見ておきたい。命懸けで北海道は計良先生の方が他地域と比べて多いです。実際に「けい」の名前を冠した農園もあります。

作業内容としては、長年、周囲の生草稲草抜き、ズッキーニの収穫、ジャガイモの収穫、収穫した野菜の出荷調整(袋詰め、シール貼りなど)が主な作業でした。朝は、普段スーパーで見かけるズッキーニよりも一回りも二回りも大きいサイズのズッキーニを収穫します。ジャガイモはまず手で株ごと抜いてから土を落とし、その後、手で軽く振りながら取り出し、指が固いか確認します。この時、地面が固いと手が滑り、指の爪が剥けたりすることがあるので、地面が固い場合は専用のフォークが振り起きます。鹿児島県、沖縄県、千葉県ではトラクターで土を振り起していたので、人力で振り起すのは初めてでした。稲草抜きは至極単純な作業で草を手で抜いて、指定の場所へまとめて捨てます。

食事は三食自炊です。スーパーから15km程離れた市街地にあります。住居は経営者の家が併せてあった一軒家生活好むには、物々しいところのトラココシ(田んぼ)



酪農家/福井県勝山市 草刈りの様子タイムラプスにピッタリな写真だと思って選びました。草刈り機を手にも、大空を背に「大志いだきすぎ少年(筆者)」が

現地ならではのエピソード/アイスクリームを5個食べ記録更新。アルバイトの特典として酪農家の直営店のアイスクリーム食べ放題というものがありません。

ジャガイモ農家/鹿児島県沖永良部島 農作業の様子。写真手前のトラクターでジャガイモをほりおこします。写真左上で皆でジャガイモを収穫しています。

手作り新聞『大志抱きすぎ少年』紙上公開

全国の農家を廻って仕事をした報告記です。是非ご覧ください。計良 衛

友愛ユニオンメンバー/二〇二二年度派遣員



打ち上げの様子。皆の頑張りです。定よりも早く収穫が終わりました。この日はかなりお酒をのんだなあ。集まった若者と共に!



九月六日(火)羽田空港から、OEJAB派遣員の四名が元気に出発した。

国際交流事業/OEJAB派遣 110111年度 第一陣 元気に出発

二〇二〇年度チームと二〇二二年度チームの混成六名の派遣団

これは「国際交流事業」の一つOEJAB派遣が実施されたもので、三年ぶりの再開である。二〇二二年度第一陣として五名の派遣員が実施対象となった。(第一陣の一人、手塚七彩さんは、仕事の都合で翌七日に出発した)

第一陣は、二〇二〇年度に選考された者と二〇二二年度に選考された者の混成チームである。その他の者は、二〇二三年三月に、二〇二二年度の募集で選考される者と、機を同じくして第二陣として出発する予定である。

既に社会人となった者、学生生活最後の経験となる者など、状況はまちまち。それでも全員既に「友愛ユニオン」として、何度も顔を会わせており、気心の知れた仲間同士の旅である。OEJABが運営する難民研修施設・国連CTBT0見学訪問などの予定をこなす、日本時間十六日に帰国予定である。

今回は、姉妹団体OEJABとの今後の活動について話し合いをもつため、OEJAB事業担当/西川伸起理事も同時に出発した。西川理事は、十一日帰国。次号に各人の報告記事を掲載しますのでお楽しみに!

鳩山邦夫前理事長のコレクション展示

蝶—魅惑の昆虫—

「ハトヤマミドリシジミ」など稀少な標本も



蝶の収集家、飼育繁殖の研究者として有名な、鳩山邦夫前理事長のコレクションが、東京大学の敷地内にある「文京区教育センター」で公開されている(詳細は、同封のチラシをご覧ください。入場無料)

膨大なコレクションの他、いかに蝶の雌雄を見分け、繁殖させ、絶滅危惧種や稀少種を保存するかなどについて、邦夫先生が実践した報告など、学術的にも価値の高い研究報告も展示されている。

見事に展翅された美しい蝶を見るだけでも大いに価値がある。中でも邦夫先生が発見し、命名されている「ハトヤマミドリシジミ」の現物は、必見の一点だ。

幼い頃から蝶に親しんでいた邦夫先生だが、実は最初の頃は由紀夫先生も一緒に追っていたそう。そうしてエピソードを知ってから見学すると、

また違った面白さがあるのではないだろうか。鳩山由紀夫理事長の「邦夫と私の蝶」は、機関紙「友愛」五七七号に掲載されています。HPでも閲覧できます。

展示期間も残り一ヶ月余りとなった。

秋の景色が漂い始めた東京大学の構内を抜けて、美しい蝶たちに会いに行く是非、そんな子ども心に戻った一日を楽しんでみてはいかがでしょう。お薦めです!

*計良衛さんの手作り新聞をご覧になりたい方は、事務局までお申込ください。
*現在三号まで発行済み

最近好物のイチジクに生ハムを巻いて食べるのがお気に入りです。横幅が成長しすぎて、主治医から「夕食の炭水化物を減らした」とアドバイスされたら、とアドバイスされたのがきっかけ。スーパーでイチジクを買うのですが、ふと思ったのです。子供の頃イチジクを買うなんて思ってもいなかったと。近所にはどの家にもイチジクの木があり、勝手にもぎって食べていました。そこから全く見なくなったユスラウメ、グミへと思いはふくらみました。山歩きをしながら、水がわりににかじっていたスカンポ(イタドリ)もあまり見かけません。私がかなくなったのか、自然が変化したのか……。(も)

公益財団法人友愛
会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆さまのご支援・ご理解のもと活動を続けております。会員登録(個人・法人)をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。会費は寄付として税控除の対象です。
*申込みはHPからも *お問合せは事務局まで電話03-5684-3188

<https://yuai-love.com>をご覧ください!!